

# I 調査結果概要

## 県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、厳しい状況ではあるが、持ち直しの動きがみられる。

先行きについては改善の動きがみられる。

- 経営者の景況感D Iは、▲61.1と、前期比で4.4ポイント増加し、3期連続で改善した。業種別では、製造業は2期連続で改善し、非製造業は3期ぶりに悪化した。
- 景況感の先行きD Iは▲21.8と、前回調査比で16.5ポイント増加し、3期連続で改善した。
- 売上げD I、資金繰りD I及び採算D Iは3期ぶりに悪化した。
- 設備投資の実施率は3期ぶりに減少した。
- 来期については、売上げD I、資金繰りD I及び採算D Iは当期D Iより改善する見通しである。また、設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和2年10～12月期、「当期」：令和3年1～3月期、「来期(先行き)」：令和3年4～6月期

### 1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感D Iは▲61.1となり、3期連続で改善した。前期比で4.4ポイント増加し、前年同期比では4.7ポイント減少した。

業種別にみると、製造業(▲59.2)は2期連続で改善し、非製造業(▲62.6)は3期ぶりに悪化した。

#### 〈景況感D Iの推移〉

	当 期 (R3.1-3)	前 期 (R2.10-12)	前年同期 (R2.1-3)
全 体	▲61.1	▲65.6	▲56.4
製 造 業	▲59.2	▲70.0	▲65.3
非製造業	▲62.6	▲62.2	▲49.3

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は9.1%（前回調査(R2.10-12月)比+3.9）、「悪い方向に向かう」とみる企業は30.9%（前回調査比▲12.7）だった。

先行きD Iは▲21.8（前回調査比+16.5）と、3期連続で改善した。

#### 〈来期の見通し〉

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きD I (R3.4-6)
全 体	9.1%	30.9%	▲21.8
製 造 業	12.6%	26.7%	▲14.1
非製造業	6.5%	34.1%	▲27.6

## 2 売上げについて

売上げD Iは▲45.7（前期比▲20.0）となり、3期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに3期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

### 〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (R3. 1-3)	前 期 (R2. 10-12)	前年同期 (R2. 1-3)	来期見通し (R3. 4-6)
全 体	▲45.7	▲25.7	▲39.1	▲24.1
製 造 業	▲36.0	▲15.8	▲46.3	▲17.5
非製造業	▲52.9	▲33.3	▲33.4	▲29.0

## 3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲32.8（前期比▲8.8）となり、3期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに3期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより改善する見通しである。

### 〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (R3. 1-3)	前 期 (R2. 10-12)	前年同期 (R2. 1-3)	来期見通し (R3. 4-6)
全 体	▲32.8	▲24.0	▲29.5	▲25.3
製 造 業	▲26.7	▲21.9	▲34.1	▲22.2
非製造業	▲37.4	▲25.7	▲25.8	▲27.6

## 4 採算について

採算D Iは▲45.2（前期比▲11.5）となり、3期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに3期ぶりに悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

### 〈採算D Iの推移〉

	当 期 (R3. 1-3)	前 期 (R2. 10-12)	前年同期 (R2. 1-3)	来期見通し (R3. 4-6)
全 体	▲45.2	▲33.6	▲38.3	▲30.2
製 造 業	▲37.2	▲26.6	▲42.9	▲25.1
非製造業	▲51.1	▲39.1	▲34.6	▲34.1

## 5 設備投資について

実施率は19.3%となり、3期ぶりに減少した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は3期連続で増加し、非製造業は3期ぶりに減少した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の実施率より減少する見通しである。

### 〈設備投資の実施率〉

	当 期 (R3. 1-3)	前 期 (R2. 10-12)	前年同期 (R2. 1-3)	来期見通し (R3. 4-6)
全 体	19.3%	19.8%	19.2%	17.2%
製 造 業	22.7%	21.4%	21.2%	21.2%
非製造業	16.7%	18.5%	17.6%	14.4%

## 6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP14以降を御覧ください）

### 【現在の景況感】

- （一般機械器具）・販売先から増産要請を受ける等、景況感は良好である。
- （輸送用機械器具）・徐々に生産数量が戻ってきており、景況感は普通である。
- （食料品製造）・巣籠もり需要もあり景況感は良好である。
- （印刷業）・緊急事態宣言の再発令で一気に悪化した。
- （百貨店）・コロナ禍による客数減少もあり、厳しい状態が続いている。
- （スーパー）・内食需要の増加により好調を維持している。
- （情報サービス業）・テレワーク需要や電子化の動きが活発になっており、良い風向きといえる。

### 【売上げ・採算】

- （一般機械器具）・広く受注が入っており工場稼働率が上昇、売上高も増加した。
- （輸送用機械器具）・新規品の量産が始まり、売上高は増加した。
- （電気機械器具）・売上げの増加と諸経費の減少が寄与し、採算性は良くなった。
- （金属製品）・原材料費の上昇が影響し、採算性が前期比で数%程度悪化した。
- （百貨店）・衣料品を中心に外出に関連する需要は厳しい。
- （情報サービス業）・上期に停滞していた案件が再開され、業績が戻ってきている。
- （建設業）・売上増加により採算性も良くなった。

### 【今後の見通し】

- （輸送用機械器具）・半導体不足による自動車の生産減により、先行きは悪い方向に向かうとみている。
- （金属製品）・先行きは少し良くなるとの情報もあるが、どちらともいえない。
- （食料品製造）・新型コロナウイルス感染症の影響による巣籠もり需要はまだ続くとみている。
- （印刷業）・緊急事態宣言が終われば受注が動き出す気配はあるが、どちらともいえない。
- （スーパー）・前年の内食需要及び衛生用品需要が急増した反動減があると見込んでいる。
- （商店街）・ワクチンの接種も進んでいるが、今後の見通しはどちらともいえない。
- （旅行業）・受注高も前年同期よりは回復するとみている。